

B41c

## **Sgr A\* at 22 GHz around the G2 peri-center passing with Japanese VLBI Network**

Y. Asaki, M. Tsuboi (ISAS/JAXA), Y. Yonekura, Y. Miyamoto (Ibaraki Univ.), H. Kaneko, M. Seta, N. Nakai (Univ. of Tsukuba), O. Kameya, M. Miyoshi (NAOJ), H. Takaba, K. Wakamatsu (Gifu Univ.), Y. Fukuzaki (GSI), K. Uehara (Univ. of Tokyo), M. Sekido (NICT), T. Oka, S. Takekawa (Keio Univ.) A. Takumi (The Open University of Japan), S. Horiuchi (CSIRO), R. Dodson (Univ. of Western Australia)

銀河系中心（天の川銀河の中心）の大質量ブラックホールである Sgr A\* 周囲をヨーロッパ南天天文台の巨大望遠鏡 VLT を使って赤外線です 10 年以上続けた結果、銀河系中心に向かって落下するガス雲「G2」が発見された (Gillessen et al. Nature 2012, 418, 51)。その後の続報により、G2 は 2014 年 3 月には Sgr A\* のペリセンターを通過することが報告され、降着円盤と落下するガスが衝突して強い衝撃波が発生する (Sadowski et al. 2013, MN, 432, 478) などの予想もあり、大幅な増光を起こすことが期待された。我々は Sgr A\* の突発的な増光を監視するため、2013 年 2 月 11 日より Japanese VLBI Network (JVN) による、22 GHz 帯による「毎日モニタ」を開始した。現在までにこのモニタには国立天文台の水沢 10 m、高萩 / 日立 32 m (観測運用は茨城大学)、岐阜大の 11 m、国土地理院の 32 m (観測運用は筑波大学)、NICT 鹿島の 34 m が参加しており、研究機関 / 大学ファシリティの連携と各拠点スタッフの協力によって非常に特徴のある観測システムと科学観測運用を 1 年以上にも渡り実現させてきた。本講演では、VLBI 毎日モニタの観測システムと運用体制について報告する。本モニタの科学的成果については、本年会での坪井 (宇宙研) 他によるポスター発表を参照されたい。